



嘉糠 洋陸 教授

東京慈恵会医科大学

バイオセラピー：古くて新しい 生物機能を活用した難治性疾患治療法

バイオセラピーとは、人間以外の生物が持つ様々な形質を積極的に利用した治療方法である。狭義には、動植物から抽出した物質に対する人体の細胞レベル・組織レベルでの応答を基盤とするものであり、免疫療法などが含まれる。一方、広義のバイオセラピーは、昆虫や寄生虫など動物の生存に必要な機能をそのまま治療に適用するものである。ミツバチの蜂針、ナメクジ由来の止血剤、ヒルによる瀉血などが挙げられ、古くから伝統医学・軍陣医学などにおいて欠かせないものであった。近年になり、限られた医療財源の有効利用の必要性、難治性疾患の増加、個人のQOLの高まりなどから、安価かつ効果的な代替治療法の候補として、バイオセラピーを再検証する機運が高まっている。

今回の講演では、寄生虫である豚鞭虫の卵の内服による潰瘍性大腸炎・乾癬治療を目指した臨床試験、ヒロズキンバエの幼虫を医療用ウジとして用いた慢性創傷に対する治療法の開発など、我々の最新の研究成果を紹介しつつ、バイオセラピー研究の面白さとその将来性について議論したい。

日時：2024年4月18日（木）17:00～18:00

場所：医学部 北棟5階 セミナー室

(ハイブリッド開催 <https://zoom.us/j/99272672147>)